

平成23年7月29日

11:00～11:30

於：中央合同庁舎2号館16階観光庁国際会議室

第9回 空港運営のあり方に関する検討会 議事録

国土交通省航空局

目 次

○開会	2
○開会挨拶	2
○とりまとめに向けた討議②	3
○閉会	11

開 会

【空港運営調整室長】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第9回の空港運営のあり方に関する検討会を開催させていただきます。

委員の皆様方には、夏休み中の大変お忙しいところ、しかも週2回という形でご迷惑をおかけいたしましたけれども、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

まず、第9回の検討会の開催に当たりまして、初めに三井副大臣よりごあいさつを申し上げます。副大臣、よろしくお願ひ申し上げます。

開会挨拶

【三井副大臣】 皆さん、おはようございます。急いで来たものですからちょっと息切れしているんですけども、朝から道路、今はダム、そして今度は御立座長をはじめとして、空港のあり方について長きにわたりましてご検討いただきまして、ほんとうにありがとうございます。

また、まさにオープンスカイ、これからの航空のあり方を非常に熱心にご討議いただきました。

これからの運営のあり方、経営のあり方については、当然、御立座長はじめ委員の皆さんに取りまとめていただいて、今日ご報告をいただけると伺っております。

いずれにしても、これからほんとうに厳しい、地方空港を含めて、経営のあり方についてはしっかり取り組まなければならないなと思っております。そういう意味でほんとうに、今年の12月から長きにわたりまして、8カ月間ご検討いただきまして、ありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。冒頭のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

【空港運営調整室長】 ありがとうございます。

それでは資料の確認等をさせていただきたいと思います。

まず、事務的なご連絡でございますが、本日の検討会、赤井委員、荒木委員、江口委員、田邊委員、花岡委員、福田委員、柳川座長代理が所用でご欠席でございます。なお、高橋委員の代理といたしまして、北海道東京事務所長の加藤様にご出席いただいております。

続きまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。議事次第、委員名簿、配席図がそれぞれ1枚ずつ、さらに資料1といたしまして、「空港経営改革の実現に向けて（空港運営のあり方に関する検討会報告書）（案）」という、ホチキスでとめた資料が1部ございます。以上となっております。もし不足がございましたらお申しつけくださいませ。

また、これまでの資料につきまして、同じように青いファイルで席上に置いておりますので、それも適宜ご参照いただければと思います。

それでは、これより議事に入らせていただきたいと思います。議事の進行は御立座長にお願い申し上げます。座長、どうぞよろしくお願い申し上げます。

とりまとめに向けた討議②

【座長】 ありがとうございます。委員の皆さん、ほんとうに長い間ありがとうございました。それから、政務三役も今、お忙しいのにお時間をつくっていただきまして、ほんとうにありがとうございます。

今、副大臣からお話がありましたように、去年の12月3日からいろいろ議論を繰り返してまいりました。特にこのところは、時間がタイトな中、私のほうからたたき台を、骨子を出させていただき、コメントをいただき、たたき台の案を出し、コメントをいただくということで、精力的に皆さんのご協力によりまして、前回、26日に最終の1つ前という形で出させていただきました。「空港経営改革の実現に向けて」という報告書に、さらに皆さんからいただきましたコメントを、私なりにできるだけ取り入れる形で修正させていただいたのが本日のものがございます。

これについても、特にコメントをいただきました方を中心に、事前にお配りしてございますので、ある程度ご了解をいただいていると思いますけれども、本日は、もしここでも特段に、これだけはという、あるいはこの中身だけではなく、この9カ月を振り返り、何かご意見を、どうしてもご発言いただきたい

というところがありましたらいただきたいと思います。それで、もし皆さんのご了承が得られるようであれば、この報告書を、今日は三井副大臣もお越しいただいておりますので、こちらから、我々の検討結果としてお渡しすることを皆さんに承認いただきたいと思っております。

恐縮でございますが、委員の皆様、この形で提出させていただくことにご了承いただけるかどうか、あるいはコメントがあるかどうかについて、皆さんのほうからありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。よろしゅうございますでしょうか。

(「はい」の声あり)

【座長】 それでは、ありがとうございます。ここで皆様のご承認をいただきましたので、現在机の上に置いてあるものを最終の取りまとめとさせていただきます。

今いろいろ、ダムの話、道路の話と、副大臣もおっしゃいましたけれども、さらにこの話は、国交省がやっていらっしゃるインフラの話のもう一つの柱だろうと思っております、今おっしゃった2つと同じでございます、だんだん成熟してきた中で、どうやってパイを配分して、どうつけかえるんだという話をしていても元気が出なくて、このままでは出口がないという中で、昨年度の国土交通省の成長戦略会議の中で、財政に頼らない形で、でも、必要なところにはきちんと知恵とお金が流れるようにして、成長に役立つようにしようという流れの中で出てきたものだと思っております。

皆さんのご協力を得まして、本日はまとめたものを、まずは、先ほどオープンスカイというお話がありましたように、中も外も流れをよくしていくというのがインフラの役割でありますので、それをどのようにやっていくか。しかし今までの、新しい空港をつくっていくことを主としたパラダイムではなくて、あるものをうまく、民間の資金とか知恵を入れていただきながら使っていく。

ですので、こういう議論をしますと、よく効率一辺倒だとか、いやいや、効率じゃなくてとかいう議論になるんですが、私は今回、皆様のお力添えを得ましてまとめましたのは効果だと思っております、同じあるものであれば、それをより効果的に使う。より効果的に使うには、民間からのお金も入ってきたり、知恵も入ってきて、結果的には経済が成長し、地域が元気になるということがなければやった意味がありませんので、かなり大きな変革だと実は思っ

はおるんですけれども、その方向性を取りまとめさせていただいたと思っております。

そういう意味で、これは複数の方からあったんですけれども、紙を出しただけで終わってしまっただけは何のために時間を使ったかわかると、委員の皆さんからもありましたので、今日は副大臣、政務官にもお越しいただいて、これは今後、もともと国交省の成長戦略会議、それからその後の閣議決定をなされました新成長戦略に沿ったものではありませんけれども、これを着実に実行していただくための1つの具体案であるとお受けとめいただきまして、粛々と進めていただく、特にスピーディーな実行をお願いしたい、これはお願いとして申し上げたいと思います。どうかよろしく願いいたします。

それでは、私のほうから、セレモニーになっちゃうかもしれませんが、やはりこれをお渡しして、あとはお任せしますということをお願いできないので、報告書を手交させていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

(報告書手交)

【空港運営調整室長】 それでは、恐れ入ります、三井副大臣から一言ごあいさつを賜ればと思います。

【三井副大臣】 ほんとうにありがとうございます。これまで熱心に議論いただきまして、今、御立座長から報告書をいただきました。紙切れにならずに、私たちもしっかりこれを受けとめまして、国土交通省としてもしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。この経営のあり方については、まさにこういう形でご議論いただいたことは前代未聞だと思っておりますので、大変貴重な資料だと、私たちもこれをぜひ、実践に生かしていきたいと思っております。これで終わるのではなくて、御立座長はじめ委員の皆さんにご声援を賜ることをお願い申し上げまして、お礼にかえさせていただきます。ありがとうございました。

【空港運営調整室長】 恐れ入ります。本検討会のカメラ撮りはここまでとさせていただきますので、ご了承いただければと思います。

それでは引き続き、座長、よろしく願い申し上げます。

【座長】 ほんとうにありがとうございました。せっかくの機会でございますので、副大臣、政務官のお時間の許す範囲で、ご出席いただいております委員

の皆様から、ここからは懇談、感想になるという理解ではありますけれども、今後に向けてということで、お一人ずつ何かコメントをちょうだいできればと思います。

じゃあ、そちら側から、あいうえお順でいくとしょっちゅう先に当たるので申しわけないんですけども。なかったらいいですが。

【委員】 ○○でございます。本日はどうもありがとうございます。座長からもありましたように、報告書はかなり、今までの中で集中的にコメントさせていただいて、皆さんのお力で作り上げたものだと思っています。

前回も少し私、申し上げたかもしれませんが、せっかく政務の副大臣、政務官もいらっしゃるので、もう一度申し上げると、このスケジュールのところにもありますように、約1年後に基本政策、空港経営改革の実行方針の策定が20ページにありますけれども、前回も申し上げましたとおり、コンセッションにいくか、空港のあり方を考えるかという上で、やはり民間資金が参入するためには、政府の空港政策、航空政策のあり方が非常に重要になっていて、その一定の条件のもとで自由に民間の発意と資金を導入していただくということだと思っています。

それによって、例えばコンセッションをする場合であればということですが、コンセッションによって受け取る金額も自由度を増して非常に大きくなる。それで、民間のスキル、一定のレギュレーションの中だと思うんですが、そのためにはやはり政府の裁量が非常に大きいと思いますので、そこに向けてぜひ、この方向で1年後なり、しばらく、10年ぐらいかかるものなので、しっかり政策等を見詰めていただきたいというのがお願いでございます。

非常に勉強になりました。私をはじめ、皆さん、勝手なことを時々申しましたけれども、ありがとうございます。事務局の方もありがとうございます。以上です。

【委員】 ○○でございます。私は空港というものを考えますときにいつも感じるんですけども、人が空を飛べるようになってから、ほんとうに日が浅うございます。鉄道よりも、船よりもほんとうに歴史が浅くて、また、技術的にもこれから日進月歩でますます速く、ますます技術革新をしていくのであらうと思います。また、日本の空港や飛行機が庶民に手が届くようになったのもほんとうに日が浅くて、まだたかだか三、四十年の歴史ぐらしかありません。みんな飛行機に乗れることがなかった時代のほうが長うございます。

そういう中で、日本が戦後空港政策、空港というものにいろいろトライして

きたという歴史の中で、今あるわけです。しかし、これからどういうふうに進めていくかの次なるステップの時代になりました。今まで、そこそこ日本国中にネットワークを張りめぐらしてきたわけですが、次なるステップとしては、ある程度財政規律を持ちながら、また民間の知恵や、ノウハウや、資金を入れながらも、しかし公共性や、特に安全を担保しながらやっていく。そういう意味では非常に今回の検討会の議論も、報告も、非常にバランスのとれた、具体的で、かつ、明日へ向かって具体的な期待の持てるような報告書になったのではないかと考えております。

特にお願いしたいのは、今、〇〇委員もおっしゃいましたように、来年度、2012年にこの報告書を受けて策定されます空港経営改革実行方針の策定が、これからどういうふう具体的なことを、この報告書の中にあることを実行していくかということ、さらにきちっと国によって策定するところが重要でございますので、そのところの策定を急いで、かつ、しっかりとしたものに練り上げていかなければならない、そのところをぜひお願いいたします。

今日も、副大臣や政務官にもしっかりオーソライズしていただきましたので、新しい日本の空港のあり方や航空行政の幕あけだと期待いたしております。以上でございます。

【委員】 〇〇と申します。御立座長のリーダーシップで、大胆かつ、いろんなところに配慮いただいた報告書ができ上がっていると思っておりますので、内容はすばらしいものと思っておりますが、ただ、最初に副大臣からのごあいさつにもあったと思うんですが、厳しい地方空港、そこをどうするんだ、どういう構造をつくるんだというところが、いろんなヒアリングも、海外からの事例も聞かせていただいたんですけども、なかなかまだ、いい知恵があるようでないように思いますので、そういう厳しい地方空港をどうするんだ、あるいはどういう財務構造にしていって、パブリックセクターがどのようにかわるんだということについても、改めてその部分も焦点を当てて、またさらにご検討いただけたらと思っております。ただ、骨格はできていると思いますので、これをベースにそこに焦点を当てていただいて、さらに検討いただけたらと思います。どうもありがとうございました。

【委員】 〇〇でございます。7カ月間お世話になりました。ありがとうございました。

私はユーザーの立場で、終始言っていることは同じなのですが、これから進めようとしていることが国民にとってどんなメリットがあるかということをも具

体的にお示しすることが、この施策を後押しし、応援してもらえることにつながると思います。例えば自分の町の近くの空港がどんなふうに変わっていくのだろうと、わくわくした気持ちで、こういったことに対して夢が持てるようなプロジェクトになるといいなと思っております。

具体性の部分では、座長に大変ご配慮いただきまして、海外事例ですとか、具体的な例を幾つか取り上げていただき、一般の方が見てもかなりおもしろい内容になったのではないかと感じました。いろいろとご調整いただきまして、事務局の皆さんもどうもありがとうございました。以上でございます。

【委員】 ○○でございます。御立座長をはじめ、皆様のおかげで非常にすばらしい報告書ができたのではと思っております。

私は出身が金融機関ということもあり、主に投資家の立場なり、ファイナンスの立場からみた実現性も念頭において検討させていただき、という視点が多くなりました。今回の報告書について述べれば、特にコンセッション方式が大きく出されているとも感じています。このことは今回議論の対象とした国管理空港のみならず、ほかのインフラなどにおいてもコンセッション方式の取り組みを行なううえで、たぶん本格的なきっかけをつくる窓にもなるのではないかと感じています。

今後スケジュール的にはこれから長くて約10年間、今回議論の対象とした国管理空港のみならず、各地方空港のステークホルダーなどからもいろいろな意見がでてくるのではと思います。しかしこの報告書で掲げられた基本方針、それは理想論と言われることもあるかもしれませんが、これに対してはここに集まられた皆様のご協力で、ぜひ実現する方向で努力してゆくことが必要と思っておりますし、私自身もサポートさせていただくつもりでございます。どうもこれまで本当にありがとうございました。

【委員】 ○○と申します。私も7カ月間にわたりまして、御立座長はじめ、各委員の皆様方にいろいろご指導いただき、その議論に加えていただいて、そしてこのような意義深い報告書の策定に携わらせていただくことができたことを大変喜びに思っております。ほんとうにどうもありがとうございました。

こういった中で、私自身この議論の中で3点ほど非常に思いを込めた部分がございます。1つは、航空系事業と非航空系事業の運営・経営の一体化、そしてそこに民間の知恵なりノウハウをどうやって入れていくのかという、改革の一つの非常に大きな方向性とその具体策をまずきちっと入れていく。そして2つ目は、その一方で各地域、あるいは各空港、いろいろ個別の事情がございま

すので、そういったものについての配慮、工夫をその中に取り入れていく。そして3つ目は、そうした大きなスキームや業務プロセスをどういう形で進めていくのかという、今後の方向性とかやり方といったものを具体的に示していく、といった3点です。私のこうした思いは、ほんとうに皆様のご尽力によって、ここに結実したかなと思っております。

そして私自身、おそらく実務家という立場でこの議論に参加させていただいているのだと思いますが、一方で、皆様方と議論させていただく中で、空港というのはこんなに国民の生活とか、地域社会の色々な動きと密接に関係しているものなんだと改めて感じた次第でございます。

したがいまして、お願いを申し上げますれば、今回の議論は霞が関の、常にこの国土交通省の建物の中でしてきたわけでございますけれども、これを実際に動かしていく過程では、いろんな関係者の皆様方、そして国民の皆様お一人お一人が問題意識を持って広く空港のあり方を考えていただけるように、そうした環境整備も兼ねて、今後のご検討を進めていただければと思えます。以上でございます。

【委員】 ○○でございます。座長をはじめ委員の皆様方と一緒に、こういった報告書の取りまとめに参加させていただきまして、感謝しております。大変よく短期間にまとまったと考えておりますが、これはやはり出発点であるなど感じております。

まず3点ほどこれから重要な点があつて、これをしっかり考えていかなければいけないんじゃないかなと考えておまして、その第1点目は、やはり空港というのは地域活性化の最大のツールであつて、これをどうやって活用するかということについて、しっかり考えていくことが重要であつて、そのための方法論であるということ。

それと第2点目なんです、これから新しいパートナーシップを形成していくことが非常に重要な観点じゃないかなと。これまで、航空の世界というのは極めて限定的な世界だったと言われてきたわけでございますが、そういったところがどのように開放されていくか、ある意味、後退はなくて前進という形でのパートナーシップを形成していくことを考えていかなければいけないという点。

それから3点目ですが、新しい事業手法ということでコンセッション等の検討が今後進んでいくと考えられますが、こういった仕組みとか方法論に対する、利用者とか国民の理解といったものも考えていく必要がある。こういったもの

が原点かなと考えておりました、そういった面では政策、それから事業、この両面からぜひ今後もしっかり政府、行政のほうで進めていただければいいかなと考えております。

以上でございます。ほんとうにありがとうございました。

【高橋委員代理】 北海道東京事務所の加藤でございます。高橋知事が所用で欠席しておりました、失礼しております。1点だけお礼を申し上げるように申しつかってきておりますので、一言述べさせていただきたいと思います。

前回の会議でも、私どもの知事から、地域の実情というものを酌み取ってご検討いただきたいということを申し上げたんですが、報告書の中でも、空港経営に関しまして意見を公募するとか、あるいは地域の視点をきちんと取り込んで制度設計することが重要だという形で盛り込んでいただきました。この点について厚くお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。以上でございます。

【座長】 皆さん、それぞれに非常に意義深いお話をいただきまして、ありがとうございました。

最後になりますけれども、私は今回の報告書は、今から振り返ってみると3つキーポイントがあると思っております、1つは世界標準で低価格の選択肢をとということでございまして、LCCとオープンスカイと、あと残された1つのパイが世界標準の空港経営で、この3つが3点セットになると、低価格で人とか物が流れることがようやく可能になる。このパーツがようやくこれで埋まるということで、これがほんとうに世界標準になると、国民の皆さん、利用者の皆さんに低価格の選択肢がくるという、これが1つ目の大きい点だと思っております。

2つ目は、複数の委員の方がおっしゃいましたように、民間、特に年金等の、我々が嘗々と積み重ねてきた、1,400兆円とか言われるお金が、なかなか国内を成長させるために向かいにくかった。いつまでたっても株を個人の方が一定以上買うようにもなりませんし、銀行に預けておくと、これはあまり言うとも悪口になっちゃいけないですけれども、国債を買わないとなかなか貸し金が出ないという中で、こういう形で、特に長い時間安定的なキャッシュが回るようなインフラビジネスというのは、世界的に見ても、実は資金のほんとうの出し手は労働者であり、1人1人の国民が年金とかのために積み立てたお金である例が非常に多うございます。これが国内のインフラに向かって、結果的に日本の成長につながる、そういうものの1つのきっかけになるのではないかなとい

うところで、お金の流れを変えて、我々が蓄えたお金を日本のために使おうよという1つのあらわれかと思っております。

3つ目は、過去日本は、そうは言いましてもいろんな世界、医療をとっても何でもそうなんですけれども、上手にやってきたところはあるんですね。ただ、人口が増えなくなってきた、こういうインフラも、新しいものをつくるより今あるものをどううまくメンテしながらきっちり使うかと。よくパラダイムと言いますけれども、それが変わったものに合わせる中で、特に変換を難しくするのは、新しいやり方を見たことがないので怖いんですね。今回、いろんな幅広いご意見をいただいた最大の意味は、地域と企業経営のプロと資金の出し手、いろんな人がタッグマッチを組めば抜け道はあるんじゃないか、そこをどうやって探していくかというのは、針の穴ほどではなくて、意外に、探してみても議論すれば怖がらずにやる道はあるんだなということ、少なくともここにご参加いただいた方々については確信を得ていただいたし、これをどうやって実際にやっていただく方にも広げていくかというところで、新しいタッグマッチを、地域と、企業経営の部分と、お金の出し手、これをうまくつくっていくということだと思っております、実に偉そうなことを申し上げましたけれども、ぜひこれをうまく進めていただきたいということで、あえて、下手くそなまとめなんですけれども、こういう意味があると私自身は思っているところを個人の感想として申し上げました。ありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

閉 会

【高杉室長】 ありがとうございました。

それでは、本日をもちまして、本検討会は終了とさせていただきますと存じます。長期間にわたりまして、皆様方、ほんとうにどうもありがとうございました。

【三井副大臣】 どうもありがとうございました。